

令和 7 年度 学校評価結果報告

県立串木野特別支援学校長

1 実施状況・集計状況について

- ・ 令和 7 年 11 月 6 日（木）～25 日（火）の期間に実施した。
- ・ 職員は、Google フォーム・（事務部のみ）紙面回答で実施し、回収率は 100%。
- ・ 保護者は、Google フォームと（希望者のみ）紙面回答で実施し、回収率 75%。
アンケートの案内プリント配布時に安心安全メールを送信した。また、締め切り前に再度安心安全メールを送信し、回答を呼び掛けた。
- ・ 児童生徒は、質問項目の内容により一部回答も可能とし、通学バス、寄宿舍に関することは該当者のみ回答した。児童生徒在籍数 250 人中 126 人が回答した。

【評価基準】

職員	・・・ 4：十分達成	3：おおむね達成	2：やや不十分	1：不十分	
保護者	・・・ 4：あてはまる	3：ややあてはまる	2：あまりあてはまらない	1：あてはまらない	0：わからない

2 考察

- ・ 職員による自己評価において、課題と捉える「2」、「1」の合計が 20% を上回った項目はなかった。
- ・ 成果と捉える「4」が 20% を上回った項目が 21 項目中 15 項目、「4」、「3」の合計が 90% を上回った項目が 21 項目中 18 項目あった。
- ・ 保護者によるアンケートにおいて、「2」、「1」の合計が 20% を上回った項目はなかった。

【職員の課題・成果の捉え方】

課題：「2：やや不十分」「1：不十分」の合計が 20% を上回る項目。

成果：「4：十分達成」の割合が 20% を上回る項目。

※保護者と児童生徒に関しては、職員自己評価の情報収集の一つとしての位置付け。

保護者の「2：あまりあてはまらない」、「1：全くあてはまらない」の合計が 20% を上回る場合に参考とする。

(1) 教職員による評価について

- ・ 「食育の推進」、「安心安全で適切な医療的ケアの取組」、「服務規律の厳正確保」については昨年度同様、高い評価を得ている。
- ・ 「小中高一貫性・系統性のある教育課程の編成・実施、評価・改善」、「個別の指導計画に基づいた授業実践、授業改善」、「学習指導における障害に応じた工夫」、「キャリア教育の推進」、「業務改善に関する項目」については、「4」の項目が 10% 台とやや低い評価であったが、「3」との合計の評価については、昨年度より高くなっている項目もあった。

(2) 保護者アンケートについて

- ・ 「丁寧な進路指導」，通学バスに関する項目については，昨年度より10%以上高い評価となった。進路指導については，昨年度低い評価であったが，学部 PTA 等での取組や，進路便り，PTA 新聞での進路特集等の成果であると考えられる。
- ・ 「学校を楽しみにしている」，「徴収金等の使用」，「寄宿舎生の生活力の向上を図る取組を家庭・学校と連携して行っている。」項目については，昨年度より「4」，「3」の合計の評価が低くなっている。学級経営の工夫，事務部との連携，寄宿舎と学校・家庭との連携をより密に行い，改善を図っていく。

(3) 児童生徒アンケートについて

- ・ 「先生に話しかけやすいです」，「学校での勉強はよくわかります」，「寄宿舎の生活は，家や学校での生活に役立っています」の項目は，「4」の評価が昨年度より10%前後高い評価となっている。
- ・ 「先生は気持ちのよいあいさつをします」，「先生は明るく話しかけてくれます」，「寄宿舎の先生は，よく話を聞いてくれます」，「学校では，安心して，安全に生活できます」の項目について，「4」の評価が昨年度より低い評価となっている。挨拶や関わり方について，更に職員一人一人が意識して取り組む。また，校内の改修工事が進んでいること，これからも進めていくことを児童生徒へ伝えるとともに，日常の安全点検等に取り組んでいく。

3 まとめ（改善策について）

教職員評価，保護者・児童生徒アンケート結果において，成果と捉えられる項目は多く，課題と捉えられる項目はなかったため，本校の今年度の教育活動や学校経営についての重点項目の目標はおおむね達成できていると考えられます。

教職員の「よいと思われる点やよりよくするための改善点・改善策」や，保護者・児童生徒からの御意見では，たくさんの記述があり，関係する係等で検討を行い，改善策を出し合い，共通理解しています。今年度改善を図ることができる項目についてはすでに取り組んでおり，その他の項目についても来年度に向け，改善に取り組んでいきます。

具体的な改善策については以下のとおりです。

「タブレット端末の使用法について」

- ・ タブレット端末の使い方について，ガイドラインを作成し，共通理解し，指導の統一化を図っています。

「学習指導において障害に応じた工夫（自立活動の充実）について」

- ・ 令和9年度より，時間における自立活動を C 課程においても実施することとし，夏季休業中を中心に研修を行い，体制を整えていきます。

「保健指導，健康の保持増進について」，「感染症対策について」

- ・ 今年度と同様，ガイドラインを基に作成した本校の「学習指導中の熱中症対応」について，周知して取り組みます。
- ・ 必要に応じて換気・消毒・マスク着用の呼び掛けを更に徹底します。状況に応じて，感染状況を安心安全メールでお知らせします。

「安全指導の充実に関することについて」

- ・ 今年度は，保護者の意見を基に引き渡し訓練を学校全体で実施しました。今後も保護者等の意見を参考にしながら検討工夫していきます。
- ・ 不審者対応訓練（職員）については，時期を変更して実施します。
- ・ 些細なヒヤリハットでも報告するよう呼び掛けを行い，大きな事故につながらないようにしていきます。

令和7年度 重点目標の評価（自己評価） 集計結果

- ・ 自分自身の取組状況ではなく、組織体としての学校教育活動の状況について評価する。
- ・ 評価基準《 4：十分達成 3：おおむね達成 2：やや不十分 1：不十分 》 に○をつける。

評価項目（観点）		昨年度の学校評価の反省を参考にした今年度の重点項目	■ 4 十分達成 ■ 3 おおむね達成 ■ 2 やや不十分 ■ 1 不十分			
I 教育課程・ 学習指導	1	小中高一貫性・系統性のある教育課程の編成と実施がなされているか。	11%	84%	5%	
	2	小中高一貫性・系統性のある教育課程の評価・改善がなされているか。	9%	84%	7%	
	3	個別の指導計画に基づき、PDCAサイクルを意識して授業実践・授業改善が行われているか。	13%	80%	7%	
	4	学習指導において、障害に応じた工夫（自立活動の充実や教材教具・ICTの活用）を行っているか。	18%	74%	7%	1%
	5	生活年齢に応じた関わりや、人権を尊重した指導・支援が徹底されているか。	22%	69%	9%	
	6	食育の推進において、全体計画を活用した食に関する指導が行われているか。	32%	64%	4%	
II 研修	7	テーマ研修において、職員間の学び合いや語り合いの充実、授業力向上に効果的な取組を行っているか。	27%	68%	4%	1%
	8	職員研修等を通して、教員の資質向上に効果的な取組が図られているか。	21%	77%	2%	
III 指生 導徒	9	生徒指導要を踏まえ、いじめや不登校、問題行動に対し、未然防止、早期発見、適切で早期の対応が図られているか。	20%	72%	7%	
IV 指進 導路	10	小学部段階からのキャリア教育を推進し、学部間、家庭や地域、関係機関と連携しながら進路指導が行われているか。	15%	74%	11%	
V 保健 安全 指導 ・ 管理	11	学校医や関係機関等と連携を図りながら、保健指導、健康の保持増進（肥満防止・虫歯予防の徹底等）に当たっているか。	26%	70%	4%	
	12	感染症対策の徹底と児童生徒の学びの継続・充実との両立を図る工夫を行っているか。	30%	66%	4%	
	13	医療的ケアは、機器の整備、学校看護師や保護者・主治医との連携の下、安心安全で適切に行われているか。	46%	54%		1%
	14	危機管理体制の整備や危機管理マニュアルの作成、訓練を通して、職員の危機意識の向上、適切な判断力の向上が図られているか。	28%	70%		1%
	15	安全点検による危険箇所の適切な点検・修理、ヒヤリハット報告の効果的な活用がなされているか。	33%	65%		1%
VI 的 セ ン タ ー	16	幼保、小、中、高等学校への巡回相談や学校見学などセンター的機能を発揮し、地域のニーズに応えているか。	36%	64%	0%	
	17	「個別的教育支援計画」、「移行支援計画」について、引継ぎ会やケース会議などで効果的な活用が図られているか。	27%	70%	2%	1%
VII 教 育 宿 舎	18	各学部との連携を図ることで、寄宿舎教育の充実を図ることができているか。	24%	74%		1%
VIII 改 業 善 務	19	会議の効率化や各種システム等の整備を行い、職員個々が計画的に時間を有効活用することができるように工夫がなされているか。	16%	70%	12%	1%
IX 規 服 律 務	20	同僚性を発揮しながら、支え合い、学び合うことができているか。	22%	67%	9%	1%
	21	交通法規の遵守や個人情報の保護・管理などを徹底し、服務規律の厳正確保に取り組んでいるか。	42%	56%		2%
学校評価について	評価項目1～21の内容について御意見等ありましたら記入してください。					

令和7年度 学校評価集計結果（保護者）

177/236

評価基準 《 4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない

1：全くあてはまらない 0：わからない 》

評価項目（観点）		■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ 全くあてはまらない ■ わからない				
1	学校は、教育方針や教育内容・取組について保護者にわかりやすく伝えている。	63%	30%	5%	1%	1%
2	児童生徒は、学校に行くことや訪問教育を受けることを楽しみにしている。	63%	26%	7%	1%	3%
3	教職員は、特別支援教育の専門性を生かして、児童生徒を理解し、指導・支援に取り組んでいる。	62%	32%	4%	2%	1%
4	学校は、教材の工夫やタブレット端末の活用などを通して、児童生徒が生き生きと主体的に取り組む授業となるよう、工夫している。	61%	25%	5%	1%	8%
5	教職員は、児童生徒に対して人権に配慮した言葉遣いや関わり方をしている。	65%	27%	3%	1%	3%
6	学校は、児童生徒の学校生活の様子を、連絡帳や学部・学年だより、週報などで知らせている。	80%	18%	1%	1%	1%
7	学校は、教育相談や進路相談を、相談しやすい雰囲気で行っている。	69%	24%	3%	2%	2%
8	学校は、進路に関する情報を、児童生徒・保護者のニーズや実態を考慮して発信し、丁寧な進路指導を行っている。	58%	31%	3%	2%	6%
9	教職員は、児童生徒の健康状況について家庭と連携し、健康管理及び健康増進に取り組んでいる。	74%	22%	3%	1%	1%
10	学校は、交通安全や火事・災害時の避難などの安全指導の充実に努めている。	68%	24%	2%	1%	5%
11	学校は、検温や手洗い、うがいなどの感染症対策に適切に取り組んでいる。	62%	24%	4%	10%	1%
12	学校は、校内の施設設備を、児童生徒の実態等に配慮して整備している。	49%	35%	7%	1%	8%
13	学校は、徴収金等を、適切な目的で使用している。	76%	14%	1%	8%	1%
14	（通学バス利用者の保護者のみ回答） 通学バスは、安全に運行されている。	76%	17%	4%	2%	2%
15	（通学バス利用者の保護者のみ回答） 通学バスの職員は、保護者と連携が図られている。	75%	20%	3%	1%	1%
16	（寄宿舎生の保護者のみ回答） 寄宿舎は、寄宿舎生の生活力の向上を図る取組を、家庭・学校と連携して行っている。	61%	28%	11%		
17	（寄宿舎生の保護者のみ回答） 寄宿舎は、寄宿舎生の健康状況の把握と安全面に配慮した取組を行っている。	59%	41%			

令和7年度 学校評価集計結果（児童生徒） 回答数126/250

評価基準 《 3：はい 2：まあまあ 1：いいえ 》

評価内容		■ はい ■ まあまあ ■ いいえ		
1	学校は、楽しいです。	76%	24%	0%
2	先生は、気持ちのよいあいさつをします。	71%	24%	6%
3	先生は、明るく話しかけてくれます。	70%	17%	10%
4	先生に話しかけやすいです。	83%	11%	2%
5	学校での勉強は、よくわかります。	75%	21%	2%
6	学校は、きれいに片付けられたり、掃除されたりしています。	76%	19%	5%
7	学校では、安心して、安全に生活できます。	64%	33%	3%
8	通学バスは、安全に走っています。	75%	21%	3%
9	通学バスの先生は、よく話を聞いてくれます。	81%	17%	1%
10	寄宿舎の生活は、家や学校での生活に役立っています。	83%	16%	2%
11	寄宿舎の先生は、よく話を聞いてくれます。	68%	25%	6%